

2022 Annual Report



© 2023 SANRIO CO., LTD. APPROVAL NO. L640409
Copyright © SINANEN CO., LTD. All rights reserved.

2022 年度活動報告書

「あかりの森プロジェクト」は、シナネンがお客さまとともに
100 年先の自然を守り、育むプロジェクトです。

環境にやさしい自然エネルギー 100%を利用することで
地球温暖化の原因となる二酸化炭素排出量の削減をしながら
積極的に自然を守る活動を行っています。



あかりの森プロジェクト

クリーンなエネルギーで未来をともに

SINANEN

あかりの森 プロジェクト

7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに



13 気候変動に
具体的な対策を



15 陸の豊かさも
守ろう



シナネン株式会社（本社：東京都港区、代表取締役：安田 貴志、以下シナネン）では持続可能な未来へ向け SDGs の目標 15「陸の豊かさも守ろう」の達成を目指し、クリーンなエネルギーを利用いただくことで森の豊かさを守る「シナネンあかりの森プロジェクト」を立ち上げました。

また、クリーンなエネルギーの推進や森林保護活動により気候変動の融和策・適応策に取り組むことで変動の影響を軽減、防災機能の高い森林づくりなどを積極的に支援することで災害に対するレジリエンスを高め、SDGs の目標 13「気候変動に具体的な対策を」の達成も推進します。

本プロジェクトを通じて、地方自治体や NPO 法人と連携し、植樹や森林保護活動を行い、豊かな森づくりと地球温暖化防止に取り組んでいます。

あかりの森プロジェクト 活動指針

- ・クリーンエネルギーを使うほどに、森の豊かさを守る循環を創出し、環境配慮型電力の全国への普及による地球温暖化防止に取り組めます。
- ・地方自治体や NPO 法人と連携し、豊かな自然を守り、残していくことの大切さを伝え、育む活動に取り組めます。
- ・活動を通じて、豊かな森やあかりが灯るホテルの里づくりに取り組めます。

活動報告①

ホタルを守ろう！ハッ場ダム周辺地域 森林保護



2013 年 4 月、群馬県長野原町に「道の駅 ハッ場ふるさと館」がオープンして 9 年が経ちます。

ダムの建設で水没する地域の住民の生活再建につなげようと長野原町が整備したもので、住民が運営にあたっています。

野菜の直売所やコンビニ店、食堂、足湯などがあり、雄大なロケーションとくつろぎを求めて、季節を問わず多くの人を訪れます。

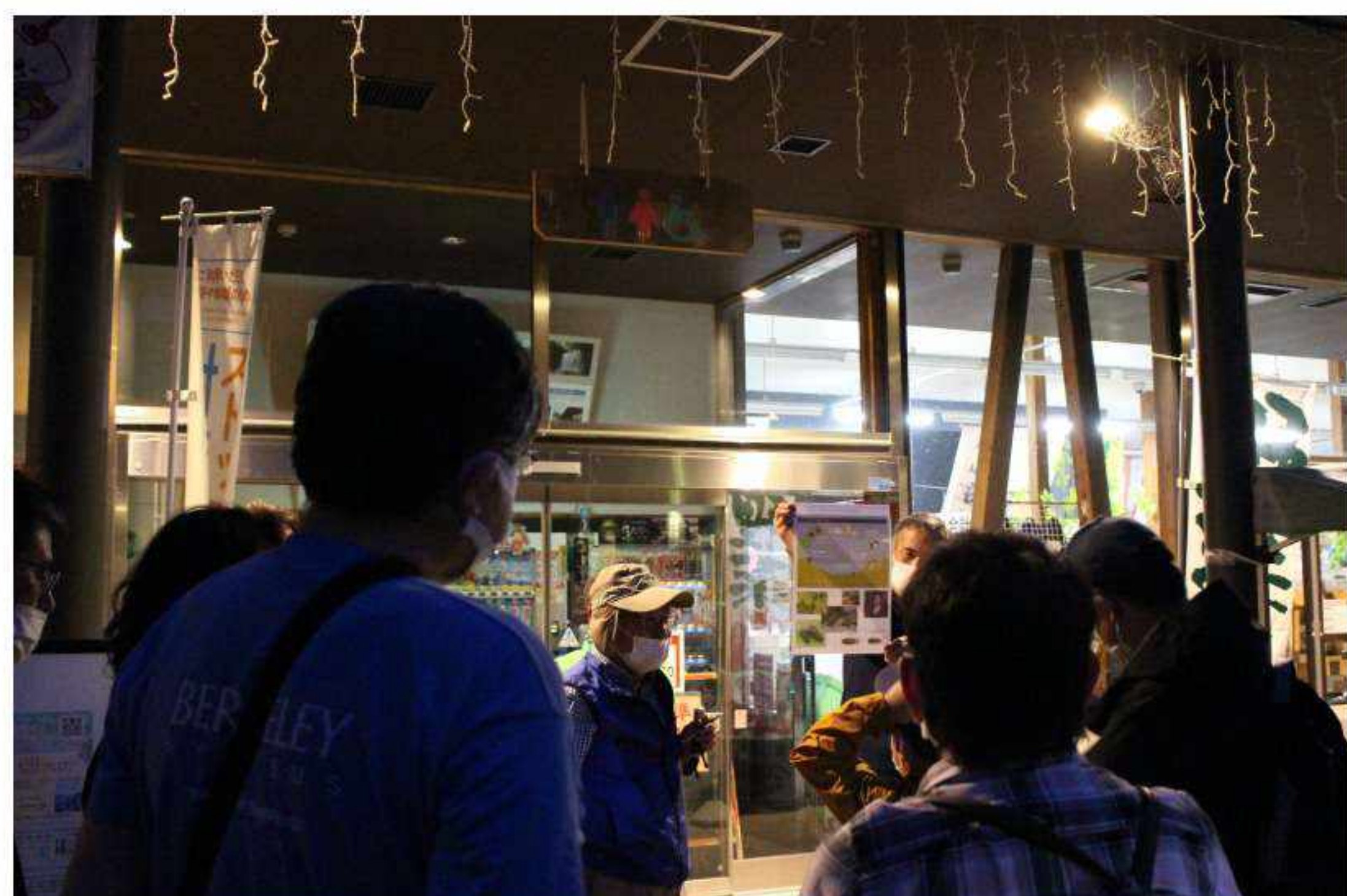
このあたりでは、昔から大切に育てられた「ゲンジボタル」が鑑賞でき、毎年 6 月末から 7 月はじめまでホタル観賞ウィークとしてエコツアーを開催しています。

2022 年 6 月 25 日（土）、7 月 2 日（土）に実施された「ハッ場ふるさとエコツアーホタル鑑賞ウィーク～森の奥から湧き出る神秘の光～」にあかりの森事務局のメンバーが参加し、お手伝いをさせていただきました。

ホタル観賞出発前に、この地域の自然を研究されているツアーガイド浦野安孫さんよりホタルの生態についてレクチャーを受けました。

ゲンジボタルは、餌となるカワニナという巻貝が生息する水のきれいなところで観られます。

最近では水質汚染のためカワニナが生息できる清流が減ってきており、それとともにゲンジボタルの数も減少しています。



ゲンジボタルの寿命は 1 年ですが、成虫となり発光するのはその一生のうち、わずか 10 日間から 2 週間ほどと言われています。

オス、メスともに発光します。飛び回るのはほとんどがオスで、メスは草木にとまって発光します。※

真っ暗な森の中、ホタルは静かにそして優雅に舞い、フツと光り、フツと消え、高い位置まで飛び交う姿はまるで流れ星のようでした。



※(参考) 国土交通省 <https://www.cgr.mlit.go.jp/oitagawa/Monosiri/floor5/seitai/GenjiBotaru.htm>

活動報告②

美しい緑をもう一度！足尾銅山地域 緑化支援

渡良瀬川の源流に位置する足尾町松木地区は、足尾銅山の煙害により荒廃し、国や県などの関係機関による復旧事業が約 100 年前から続けられてきました。

荒廃地は約 2,500ha。現在までに荒廃地の半分ほどで緑化事業が実施されてきました。

こうしたなかで、渡良瀬川流域の市民活動グループが集まり、1996 年 5 月、足尾の山に緑を取り戻そうと、「足尾に緑を育てる会」が結成され、松木地区で植樹活動を開始しました。

シナネンあかりの森プロジェクトでは、「特定非営利活動法人 足尾に緑を育てる会」の活動に共感し、支援活動を行っています。



新型コロナウイルスの感染拡大の影響によりなかなか支援活動が思うように進められない中、2022 年 8 月 10 日（水）に、あかりの森事務局メンバー 3 名が代表して植樹活動を行ってまいりました。

ひとたび破壊された自然の回復には、じつに長い年月を必要とします。多くの人たちによる地道な、そして息の長い活動が必要です。

そういった活動が実を結び森林として機能が回復することで、緑を取り戻しながら、温室効果ガスの排出量と吸収量を調整する効果が期待できます。



また、今回植樹した木はガマズミとコナラといった広葉樹ですが、広葉樹は落葉樹が多く、針葉樹に比べて葉も分解されやすく、土に戻るまでの時間が短いそうです。落ちた葉は豊かな土壌を作り多様な栄養分を川へと供給します。川から運ばれた栄養分は、植物プランクトンが光合成をして増殖、それを動物プランクトンが食べて、さらにそれを魚が食べるというサイクルを作り出します。



山と海は川を通して深い関係性にあり、豊かな山を守ることは豊かな海を守ることにもつながります。



※1(参考) 足尾に緑を育てる会パンフレット <https://ashiomidori.com/>

※2(参考) 一般財団法人日本植物生理学会 https://jspp/hiroba/q_and_a/detail.html?id=1494

活動報告③

土地本来の森を再生！湘南国際村めぐりの森

■主 催■

協働参加型めぐりの森づくり推進会議 混植・密植方式植樹推進グループ
非営利型一般社団法人 Silva（シルワ）

神奈川県横須賀市にある湘南国際村。その中に「めぐりの森」があります。

民間業者により約 20 年前から 300ha にわたる開発行為が行われていましたが、事業不振に陥った民間会社が神奈川県へ無償譲渡した土地です。

企業的には採算が合わなくなり、山河が荒れ地となった土地に本来に生育する常緑広葉樹林に再生しようという気運が高まり、2008 年より市民の手による森林再生事業が始まりました。



この森林再生の特徴は、その土地に本来育成していた常緑広葉樹林を再生させ、土地本来の力を取り戻させることにあります。また植樹をするだけでなく、森林資源の活用まで含んだ持続的な森林活動を目指しています。

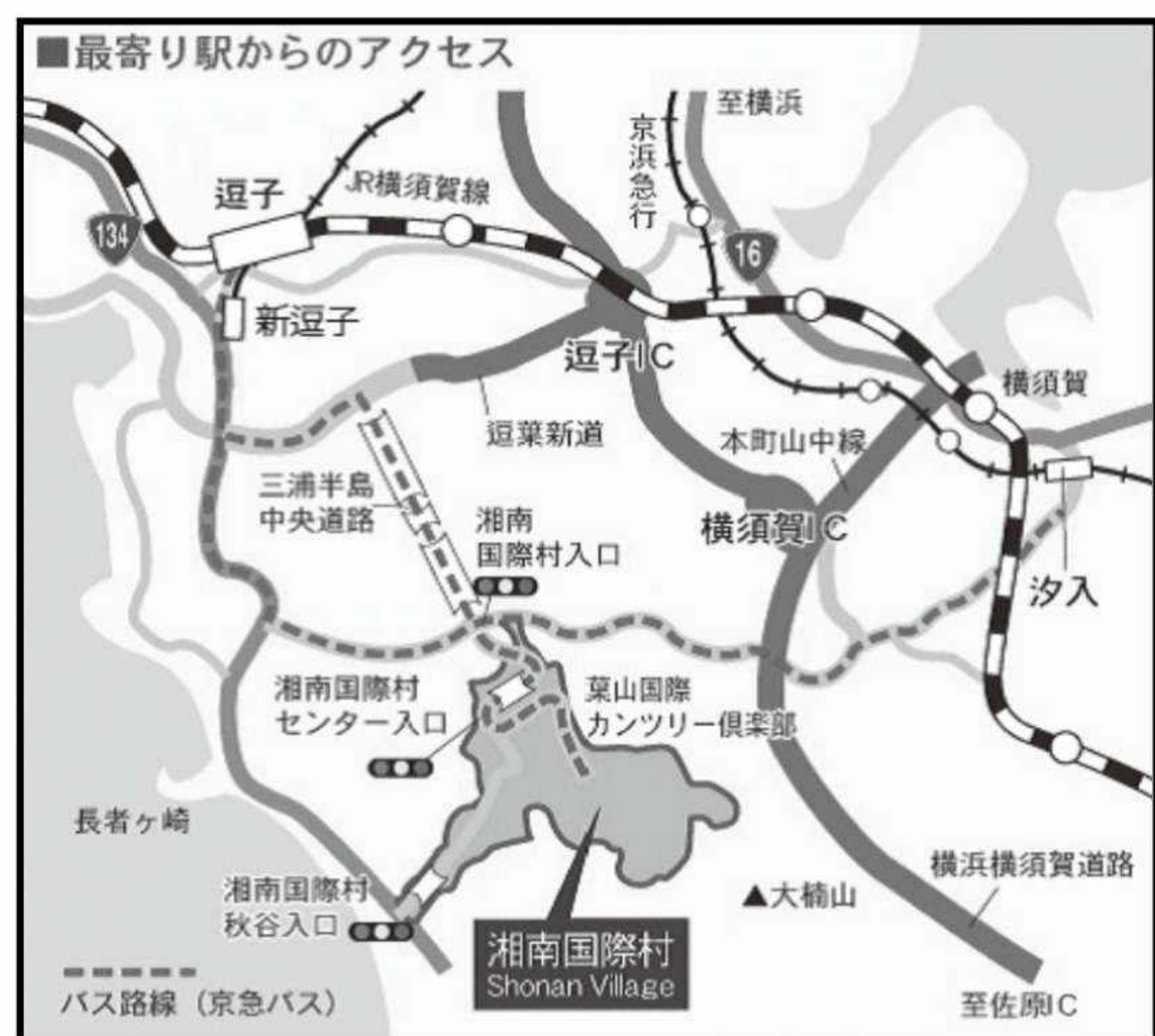
2022 年 5 月 8 日（日）に開催された「第 22 回湘南国際村めぐりの森植樹祭 ～宮脇昭先生 追悼植樹式～」にあかりの森事務局のメンバーにて参加いたしました。

快晴に恵まれた中、当社も含め総勢 529 名が参加し、土地本来の森を再生するため、潜在自然植生種である 30 種類の苗木 2,511 本の植樹を行いました。



横浜国立大学名誉教授の宮脇昭先生が、提唱・実践してきた独自の植樹方法で、その土地本来の樹種である潜在自然植生論に基づき、1 m²に 3 本を植樹します。

植樹が終わった後は、藁で苗木の足もとを覆う作業を行いました。これは、保温・保湿の役割を果たし、土壌動物に分解された時には栄養剤となり、さらには草の繁茂を抑制します。



資料提供：非営利型一般社団法人 Silva（シルワ）



（参考）非営利型一般社団法人 Silva（シルワ） <https://www.silva.or.jp/>

寄付・支援のご報告

2022 年度は下記のとおり支援いたしましたのでご報告いたします。

寄付・支援先	活動内容
株式会社 ハッ場ふるさと館	ハッ場地域での環境保全活動
(国土緑化支援機構を通じて)	
NPO 法人 足尾に緑を育てる会	煙害で荒廃した足尾の山の緑化活動
一般社団法人 Silva	湘南国際村めぐりの村における森の再生

2022年度を振り返って

2020 年からはじまった新型コロナウイルス感染症の拡大により、収束を見込んで予定していた支援活動のうち、オフラインでの活動を伴うものについては多くをあきらめざるをえない1年となりました。

新型コロナウイルス感染拡大と並行して、地球温暖化の進行は止まることなく、気候変動によって極端な気象現象の頻度が増加しています。
2022 年は、ヨーロッパや中国における記録的な高温、パキスタンにおける大雨など、世界各地で多くの異常気象が見られました。
日本では、2021 年末から 2022 年 2 月にかけて記録的な大雪に見舞われました。2 月に、岐阜県関ヶ原町では積雪量が 1997 年の統計開始以来 1 位の記録を更新しました。一方で 8 月には東京都心で 16 日連続で猛暑日（最高気温 35 度以上）を記録し、都心での観測史上最多日数を更新しました。

そのような中で 2022 年 11 月にエジプトで行われた COP27（国連気候変動枠組条約第 27 回締約国会議）では、(1) パリ協定の 1.5℃目標（世界の平均気温上昇を産業革命以前に比べ 1.5℃に抑える目標）の重要性の再確認 (2) パリ協定の気温目標に整合的な 2030 年の国別目標（NDC）の強化 (3) 気候変動の悪影響に伴う「ロス&ダメージ」に関する基金の設置等 が決まりました。
日本は、気候変動問題に対する具体的な貢献策として「削減貢献度」（Avoided Emissions）というコンセプトを発信し、メディアからも高い関心が寄せられました。
これは、製品の製造段階における排出量だけに着目するのではなく、グリーンな製品（例＝高効率エアコン、低排出自動車、発泡断熱材等）の普及を通じた社会全体の CO2 削減への貢献についても評価するという、新たな価値軸を構築するものです。こうした価値を生み出す企業へ資金を呼び込むことで、経済成長とカーボンニュートラルの実現が後押しされると考えられます。※

このような世界的な潮流の中で、私たちができることはなんなのか、あかりの森プロジェクトが活動するその 1つ 1 つは小さなものかもしれませんが、地球環境を守りたい、100 年先も自然を守りたいという意識を持ち続けその1つずつを重ねていくことが、きっと大きな広がりを生み出していくと信じて今後も活動を行ってまいります。

※（参考）一般財団法人日本経済団体連合会 https://www.keidanren.or.jp/journal/times/2023/0119_04.html

2023 年度以降のあかりの森プロジェクト

今年度からのあかりの森プロジェクトのあり方について、現在検討を重ねております。何が必要とされているのか、何ができるのか、またご参画いただいている皆さまにとっても意義を感じていただけることは何か、再構築し、皆さまとシナネンがともに活動できる機会を増やしていきたいと思っております。
支援先がこれまでと変更となる可能性もございますが、今後とも 100 年先の自然を守り育むための、シナネンあかりの森プロジェクトであり続けたいと思っております。
活動計画や新たな支援先が決定しましたら、随時 HP 等にてお伝えしてまいります。
今後ともご賛同・ご協力をよろしくお願いいたします。